

# 平成 30 年度 「いわて中山間賞」の選考

平成 30 年 11 月 1 日

岩手県中山間地域等直接支払制度

推進委員会事務局

## いわて中山間賞授与要領

### (目的)

第1 この要領は、県内の中山間地域において、地域の個性を活かした活性化の取組を行い、成果をあげている集落等に対して賞を授与し、当該取組を広く紹介することにより他地域への波及を図り、もって本県中山間地域の振興に寄与することを目的とする。

### (賞の名称)

第2 賞の名称は「いわて中山間賞」(以下「中山間賞」という。)とし、知事が授与するものとする。

### (中山間賞の対象)

第3 中山間賞の対象は、県内の中山間地域において、農業生産活動を行っている集落等とする。

### (候補調書の提出)

第4 広域振興局の農政担当部長又は農林振興センター所長は、農業改良普及センター所長及び農村整備室長と連携の上、中山間賞の候補を選定し、いわて中山間賞候補調書(別紙様式)を、毎年度、別に定める日までに農業振興課総括課長に提出するものとする。

### (選考の方法)

第5 知事は、中山間賞を授与する集落等を決定するに当たり、あらかじめ、岩手県中山間地域等直接支払制度推進委員会の意見を聴くものとする。

### (選考の基準)

第6 選考の基準は、次のとおりとする。

- (1) 集落等の話し合いを通じて、将来の目指す姿が共有されていること。
- (2) 農業生産活動を通じ、耕作放棄の防止等の活動や水路・農道の管理などが行われていること。
- (3) 集落等において、女性や若者の参画等による地域の個性を活かした活性化の取組が行われていること。

### (受賞集落等の紹介)

第7 知事は、中山間賞を受賞した集落等の取組について、当該取組の他地域への波及を図るため、各種広報媒体を通じて広く全県下に紹介するほか、その内容を事例集として取りまとめるものとする。

### (庶務)

第8 この要領に基づく庶務は、農林水産部農業振興課において処理する。

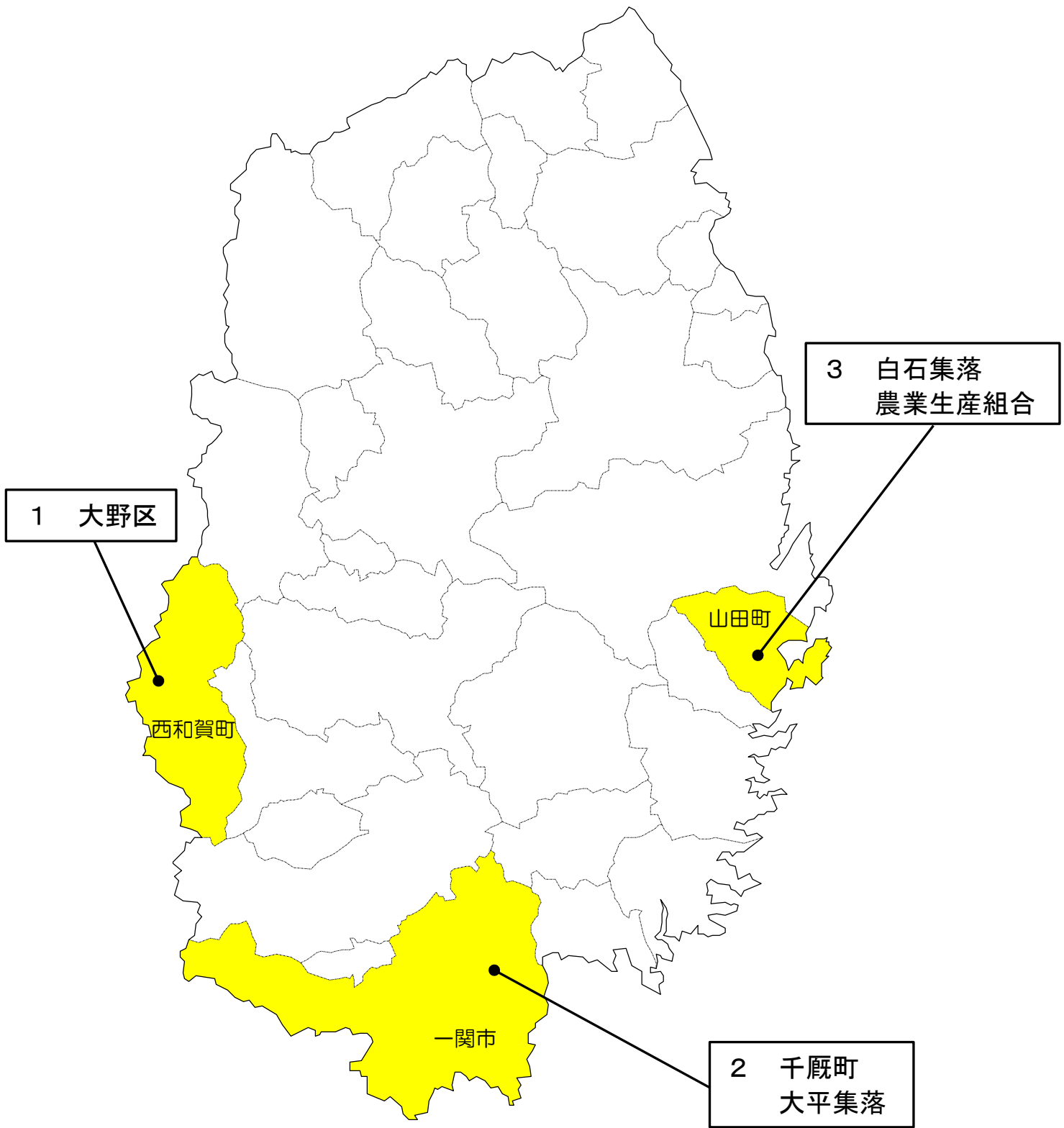
### (その他)

第9 この要領に定めるもののほか、中山間賞の授与に関し必要な事項は、別に定める。

### 附 則

この要領は、平成27年9月17日から施行する。

# 平成 30 年度「いわて中山間賞」候補団体位置図



# 1 大野区（西和賀町）

## (1) 活動のポイント

- 地域で話し合いを重ね、平成22年3月に、今後の地域づくりの指針「大野再生&活性化計画」を策定し、以後、計画に基づき、「安心して暮らせる大野」、「希望をもって暮らせる大野」を目指して活動している。
- 中山間地域等直接支払制度に取り組み、そばや大豆、わらびなどの作付けを通じて、耕作放棄の解消に努めている。また、交付金を水路の整備や農用地保全活動に充当するほか、農業機械の購入に向けて積立も行い、今後、より省力的・効率的な営農活動を行おうと意気込んでいる。
- 生産されたそばに付加価値をつけるため、企業と連携してそばもちを商品化した。また、各家庭に伝わる漬物や煮しめなどの郷土料理を継承しようと、料理人による指導のもと、レベルアップやレシピ化に取り組んでいる。
- 国際ボランティアNGO‘NICE’による企業研修や国際ワークキャンプの受入を実施し、企業の人材育成に協力するとともに、農作業体験や雪あかりのイベント等を通じて、地域の魅力を発信している。

## (2) 現地調査における主な質疑

項目	委員（質問・意見）	集落（回答）
中山間地域等直接支払制度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交付金は、農家に直接支払っているのか。</li> <li>・取組面積は年々増えているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人配分が4割、共同取組活動への支払が6割。制度を開始する時に話し合い、決定した。</li> <li>・第1期対策期は37haで始まったが、第3期対策期に10ha拡大し、47haとなった。それ以降は、47haを維持している。</li> </ul>
そばや大豆の栽培・加工等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そばや大豆の販売は、どうしているのか。</li> <li>・イベントの際に郷土料理を消費者に紹介できると良い。</li> <li>・イベントの参加者がそばもちを焼いて食べるならば、保健所の問題もクリアできる。手伝うので、是非やって欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そばのほとんどは、西和賀産業公社へ販売している。大豆の出荷先は、花巻市の納豆工場である。</li> </ul>
国際ボランティアNGO‘NICE’との交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NTT東日本との交流のきっかけは何か。</li> <li>・NICEとの交流を通じて得られた実績はあるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NICEからの紹介。雪あかりのイベントの準備等を手伝ってもらっている。</li> <li>・交流が縁で西和賀町の地域協力隊となり、大野の住民となった方もいる。</li> </ul>

### (3) 取組に係る総評（事務局案）

#### ① 評価した点

地域住民が一体となった堅実な活動により、「加工品開発」や「耕作放棄地の解消」など多岐にわたる取組を展開している点及び地域外の団体（NICE、NTT東日本）の支援を受けながら多彩な交流事業を展開し、地域の元気を創出している点を評価。過疎化・高齢化などの同様の課題を持つ地域にとっても参考となる取組である。

#### ② いわて中山間賞授与の可否

可

「いわて中山間賞授与要領」第6で定めた以下の3つの「選考の基準」を満たしており、他地域のモデルとなる取組と認められる。

- (1) 集落等の話し合いを通じて、将来の目指す姿が共有されていること。
- (2) 農業生産活動を通じ、耕作放棄の防止等の活動や水路・農道の管理などが行われていること。
- (3) 集落等において、女性や若者の参画等による地域の個性を活かした活性化の取組が行われていること。

【現地調査の写真】



【団体による概要説明】



【委員による質疑】



【そばもち等の料理】



【大野公民館に隣接した圃場】



【農業機械等を保管する「もっこり会館」】



【協定農用地（田・緩傾斜）】



【休耕田を整備したビオトープ】



【NICEが作成したビオトープ看板】

(別紙様式)

平成 30 年度「いわて中山間賞」候補調書

集落等の名称		ふりがな おおのく 大野区					
集落等の状況	市町村	西和賀町					
	代表者 氏名・住所	氏名	泉川 達也		住所	西和賀町沢内字大野	
	地域の 農用地面積	計	田	畑		草地	採草放牧地
		94.2ha	89.1ha	5.1ha		ha	ha
	構成員	世帯数	構成人数	うち 農業者	うち 非農業者	うち 女性	うち 45歳未満
				43戸	140人	81人	59人
農用地の 作付け状況	計	水稻	そば	大豆	花き	その他	
	94.2ha	31.3ha	14.8ha	12.6ha	5.9ha	29.6ha	
集落等の概況等	集落等の概況	<p>大野区は、西和賀町の中央部・沢内盆地に位置する大野地域の振興を図りながら、相互の親睦と福祉を増進し、明るく住みよい地域づくりを行うことを目的として設立された会である。地域は昔から農業を中心として成り立ち、農作業や地域の各種行事などが共同で行われ、助け合いの精神が保たれている。</p> <p>全戸数は43戸（農家25戸、非農家18戸）で、65歳以上が48%を占めており、集落営農組織や認定農業者等の担い手を中心となって農地を管理している。</p> <p>農用地は田89.1ha、畑5.1haで、主な作付けは水稻、そば、大豆、花きである。また、農用地のうち約47haは中山間地域等直接支払制度の対象農用地となっており、担い手農家による農作業の受委託が行われ、耕作放棄の発生防止が図られているほか、共同で支え合う集団的かつ持続的な体制整備が行われている。また、多面的機能支払制度にも取り組んでおり、水路・農道の管理等は多面的機能支払交付金により行っている。</p>					
	集落等の組織体制図						
	将来の 目指す姿	<p>「安心して暮らせる大野」、「希望を持って暮らせる大野」を目指し、地域にある資源を最大限に活用した取組により、豊かな地域社会を築き上げる。</p> <p>(1) 地域の農地を、地域ぐるみの取組で維持する。</p> <p>(2) 地域に伝わる郷土料理、漬物、加工品等の食の技を伝承するとともに、それらを活かして商品化を図る。</p> <p>(3) 知的障害者授産施設「ワークステーション湯田・沢内」と連携して、子供から高齢者、障害者がともに暮らす地域を実現する。</p> <p>(4) 企業研修などの都市住民との交流を通じて、移住・定住を促進する。</p>					

集落等の概況等	<p style="text-align: center;"><b>1 地域の活動のきっかけ</b></p> <p>地域では、農作業や地域行事などを共同で行い、以前から助け合いの精神が保たれていた。しかし、少子高齢化や過疎化、米価の低迷、農業の後継者不足の影響などの厳しい情勢により、耕作できない農地が増え、地域の基盤である農業の衰退が懸念された。</p> <p>そのため、より一層の地域の助け合いが大切と感じ、平成 21 年に林野庁の「山村再生プラン助成金」の支援を受け、地区内でワークショップを開催し、「大野再生&amp;活性化計画」を策定した。計画には、地区のこれまでの取組や、人口・世帯、農林業等の現状を整理した上で、今後の目指す姿とそのための方針を盛り込み、それに基づき、大野らしい地域づくりを進めていくこととした。</p> <p style="text-align: center;"><b>2 地域の活性化に向けた取組活動の特徴と成果</b></p> <p><b>(1) 中山間地域等直接支払制度の取組を通じた農用地管理</b></p> <p>耕作放棄地の発生防止及び農産加工品の開発のため、集落営農組合が、高齢化により作付けが困難となった農地を活用し、そばや大豆、エゴマなどを作付け、農用地の有効活用を図っている。また、中山間地域等直接支払交付金を活用し、協定参加者全員で農道や水路の整備作業を行い、保全管理に努めている。平成 31 年度の農業機械購入に向けて交付金の積立も行っており、今後はより省力的・効率的な営農活動が行われる見込みである。</p> <p><b>(2) 農用地の多様な活用による地域内外との交流</b></p> <p>地域の公民館である「大野ふれあい館」の隣接地に、地区の共同農園として 0.4ha の「大野ふれあい農園」を整備し、種まきや草取り、収穫などの一連の農作業や収穫祭を通じて世代間交流を図るほか、わらびなどの試験栽培も実施している。また、スゲやクワイ、トンボなどの希少動植物の観察を目的として、休耕田を整備してビオトープとし、豊かな自然環境を後世に伝える取組を行っている。</p> <p><b>(3) 食の文化を活かした取組及び農産加工品の開発</b></p> <p>漬物や煮しめなどの各家庭で作られる郷土料理を継承するため、旅館「山人」の料理長からアドバイスを受けながら、昔の手法にプロの新しい感覚をプラスし、味のレベルアップやレシピ化に取り組んでいる。</p> <p>地域で生産されたそばに付加価値をつけるため、女性と町内の企業「雪国の団子屋 団平」が連携して女性が試作したそばもちの商品化に取り組み、交流イベント等の場で販売している。</p> <p>現在、大野産大豆で作った味噌を原料に使用した「味噌キャラメル」を商品化しようと計画している。</p> <p><b>(4) 国際ボランティアNGO ‘NICE’ との交流を通じた地域の活性化</b></p> <p>地域ぐるみで、国際ボランティアNGO ‘NICE’ が企画する企業研修や国際ワークキャンプの受入れを実施している。企業研修ではNTT東日本を受け入れ、高齢世帯における農作業や地域の景観保全作業、雪あかり等のイベントの準備を通じて、社員の人材育成に協力している。また、国際ワークキャンプの受入れでは、県外や海外の若者に対し、農作業体験、郷土食作り体験、保育園・敬老会での交流活動等の機会を提供しており、国内外に大野の自然や食文化等の魅力をPRする良い機会ともなっている。</p> <p><b>(5) 知的障害者授産施設「ワークステーション湯田・沢内」とのつながり</b></p> <p>「ワークステーション湯田・沢内」は地域の良きパートナーであり、昔から協力体制をとっている。ワークステーションが行う農業活動や雪あかりの設置を手伝うなど、施設の活動を支援している。また、様々な連携策についての意見交換も行っている。</p>
---------	--



集落等の概況等	地域の活性化の取組内容	<p><b>3 今後の課題と将来展望</b></p> <p><b>(1) 地域の知名度及び訪問者数の向上</b></p> <p>国際ボランティアNGO ‘NICE’を通じた企業研修や国際交流において、来訪者に対し、大野の自然や歴史・食文化の体験、チラシによる地区の活動紹介等を行うことで、地区への関心を高めてリピーターになってもらうとともに、活動状況をSNSで情報発信して新たな来訪者を呼び込み、将来の移住・定住につなげていく。</p> <p><b>(2) 農業生産の拡大及び農産加工品の開発・商品化</b></p> <p>平成30年度現在、5.4haの耕作放棄地があるため、そばや大豆、エゴマ、わらびなどの作付けを拡大して耕作放棄地の解消に努めると同時に、収穫された農産物を材料とした新たな加工品を開発する。</p> <p>農産加工品の開発については、県の補助事業「いわて中山間地域いきいき暮らし活動支援事業」を活用し、今秋から、北上市の洋菓子店「ブルドゥネージュ」や「雪国の団子屋 団平」等と連携して、味噌キャラメル等の新商品開発に取り組む計画である。</p> <p>農産加工品の主な販売先は交流で地域を訪れた都市住民等であり、お土産品として販売することで、大野の知名度向上を図りたい。</p>
---------	-------------	---

## 大野区の活動写真



【不耕作地を活用した大豆栽培】



【ワークステーションでの農作業支援】



【企業研修での雪あかりの開催準備】



【NICEリーダー研修での保育園児との交流】

## 2 千厩町大平集落（一関市）

### （1）活動のポイント

- 4つの団地で構成される集落であり、3つの専門部（土地改良施設部、法面点検部、共同機械部）を配置することで、活動内容の具体的な方針等を取り決め、安定した農業生産活動が行われている。
- 中山間地域等直接支払制度の取組を通じて、将来の担い手の育成を図っている。交付金は、ため池の危険啓発看板の設置等に充当するほか、草刈り機の購入に向けて積立も行い、農業生産活動の省力化や世代交代を図ろうとしている。
- 男性が中心となり、そばの栽培及び加工・販売を行っている。「新そばまつり」や「小さなそばまつり」等の場で、地域内外の訪問者へ販売している。県内外へ視察研修に行き経営を学び、将来的に店を出すため、力を入れている。
- 平成30年7月に、女性らで構成される「大平ゆいっこ味噌グループ」を結成し、集落で生産された大豆を味噌に加工し、提供している。そばと同様、販売につなげ、農家所得を向上させたいと考えている。

### （2）現地調査における主な質疑

項目	委員（質問・意見）	集落（回答）
中山間地域等直接支払制度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交付金は、ありがたいと思うか。</li> <li>・取組面積は増えてきたのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがたいというよりはむしろ、今では「もらえて当たり前」という思い。無いと困る。</li> <li>・取組初年度はわずか5.4haであったが、今では4つの団地が連携し、73haまで拡大した。</li> </ul>
男性を中心としたそばの加工・販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そばはいつから栽培しているのか。</li> <li>・そばは販売もしているとのことだが、メニューは何種類あるのか。</li> <li>・先進地を視察したのなら、そばの店を出したらどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年から開始した。年によって収穫量の増減幅が大きく、栽培は難しいと感じている。</li> <li>・かけそばと天ぷらそばがあり、いずれも冷と温があるので、4種類。天ぷらには、地域でとれたナスやカボチャを使用している。</li> <li>・現在は、祭事としての販売許可であるが、将来的には店を出したい。</li> </ul>
女性を中心とした味噌の加工・販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・味噌加工場があるとのことだが、今後の展望はあるか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種補助事業を入れながら必要な物品等を揃え、また、保健所の許可を取り、販売につなげたい。大豆については、基盤整備事業を入れ、栽培面積を拡大したい。</li> </ul>

### (3) 取組に係る総評（事務局案）

#### ① 評価した点

景観づくりから始めた「そば栽培」の取組を6次産業化と結びつけ、コミュニティ・ビジネスとして発展させている点を評価。

地域内外の訪問者へ「ざるそば」などを販売する「新そばまつり」は、住民発のイベントであるが、一過性の活動ではなく、経年で成果があがっており、地域の自信・活性化につながっている。

#### ② いわて中山間賞授与の可否 可

「いわて中山間賞授与要領」第6で定めた以下の3つの「選考の基準」を満たしており、他地域のモデルとなる取組と認められる。

- (1) 集落等の話し合いを通じて、将来の目指す姿が共有されていること。
- (2) 農業生産活動を通じ、耕作放棄の防止等の活動や水路・農道の管理などが行われていること。
- (3) 集落等において、女性や若者の参画等による地域の個性を活かした活性化の取組が行われていること。

【現地調査の写真】



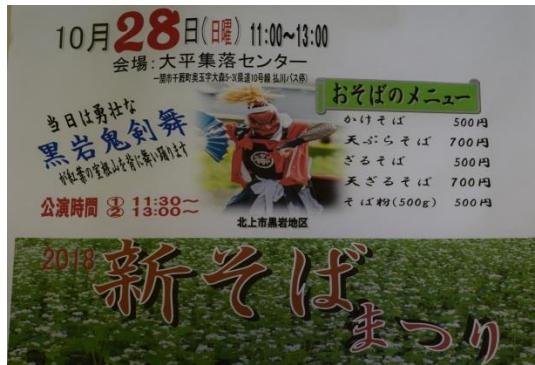
【集落による概要説明】



【委員による質疑】



【集落の活動写真の見学】



【「新そばまつり」の案内チラシ】



【集落から見える室根山】



【協定農用地 (田・急傾斜)】



【大平味噌加工場】



【集落で整備した花壇】

(別紙様式)

平成 30 年度「いわて中山間賞」候補調書

集落等の名称		ふりがな せんまやちょうおおだいらしゅうらく 千厩町大平集落					
集落等の状況	市町村	一関市					
	代表者 氏名・住所	氏名	小野寺 彰			住所	一関市千厩町
	地域の 農用地面積	計	田	畑	草地	採草放牧地	
		72.9ha	72.9ha	ha	ha	ha	
	構成員 ※協定構成員	世帯数	構成人数	うち 農業者	うち 非農業者	うち 女性	うち 45歳未満
84戸		84人	84人	人	10人	6人	
農用地の 作付け状況	計	水稻	飼料作物	野菜	その他		
	72.9ha	38.5ha	32.8ha	1.2ha	0.4ha		
集落等の概況	<p>千厩町大平集落がある奥玉地区は、一関市千厩町の北東部に位置し、室根山麓に抱かれ、四方を囲む山の斜面と沢沿いに農地が点在している。協定農用地である田約73haのうち、56%が急傾斜地で、主に水稻や飼料作物を作付けしている。農業経営は、水稻を基幹として、野菜及び畜産の複合経営となっている。</p> <p>中山間地域等直接支払制度に取り組んでおり、集落の担い手を中心とした農地の点検や、景観作物の作付け、機械・農作業の共同化、担い手への農作業の委託等を実施している。水路・農道等の管理は、多面的機能支払交付金制度を活用し、実施している。</p>						
集落等の概況等	<p>※役員会構成員：会長、副会長、専門部長、団地部長、会計、事務局</p>						
将来の 目指す姿	<p>当集落では「次の世代に繋ぐ営農と地域づくり」を念頭に、「将来にわたり農業生産活動が可能な集落営農」を目標としている。</p> <p>担い手不足が深刻化する中で、農業生産活動や、条件不利農地の維持管理を図るため、農作業の共同化をすすめ、営農組織を育成する。</p> <p>そばや味噌の加工・販売など、農産物の高付加価値化に向けた活動を活動の主軸として、農家所得の向上を図りたい。</p>						

集落等の概況等	地域の活性化の取組内容	<p><b>1 地域の活動のきっかけ</b></p> <p>中山間地域等直接支払交付金制度には第1期対策（平成12年度）から取り組んでおり、当初は協定面積5.4ha、参加者10名の小規模な集落協定であったが、第2期対策開始年度（平成17年度）に地域の話合いを重ね、現在の協定面積まで拡大し、4つの団地構成で取り組んでいる。また、平成18年度からそばの栽培を開始し、その後、「大平そば愛好会（平成23年1月結成、会員15名）」を結成し、そばの振る舞い等を行うなど地域行事への関わりを拡げている。</p> <p><b>2 地域の活性化に向けた取組活動の特徴と成果</b></p> <p><b>(1) 農業生産活動の継続に向けた活動</b></p> <p>当集落では、3つの専門部（土地改良施設部、法面点検部、共同機械部）を置き、それぞれに部長を配置している。各専門部が具体的に活動内容を取り決め、実施することにより、農業生産活動が安定的に行われている。</p> <p>畦畔の草刈り作業や涵養林作業、水路周辺の支障木の伐採作業には、将来の担い手育成のため、構成員の後継者も参加している。</p> <p>事務局では年間4～5回、集落の情報誌「大平中山間だより」を発行し、多面的機能支払交付金事業と中山間地域等直接支払交付金事業の各種連絡、水稻の病害虫防除、総会の報告、地域行事の案内など、集落活動の情報共有に力を入れている。</p> <p><b>(2) 水路・農道の保全活動</b></p> <p>年3回実施する農道等の管理作業を大平自治会と連携して実施することで、地域住民全員の参加で保全活動に取り組んでいる。また、地域内のため池等の危険箇所には、中山間地域等直接支払交付金を活用し、ロープや危険啓発看板を設置するなど、地域住民の安全を守る活動を行っている。</p> <p>平成28年の希望郷いわて国体をきっかけに、地域の女性が中心となり、室根山に通じる県道沿いの2ヶ所で、「おもてなし花壇」を整備し、美しい農村環境づくりに取り組んでいる。</p> <p><b>(3) 地域活性化及び農産物の高付加価値化に向けた活動</b></p> <p>4つの団地でそれぞれ10aずつ栽培しているそばは、大平自治会及び大平そば愛好会と連携し、男性が中心となり加工・販売を行っている。そばは、地域の祝年会や収穫祭などの行事の際に無料で振る舞うほか、「小さなそばまつり」（毎月第3日曜日に開催）や「新そばまつり」（毎年11月に開催）で、地域内外の訪問者へ販売している。併せて、そばまつりの際には、地域で生産された農産物（カボチャやブルーベリーなど）も販売しており、消費者との直接的なやりとりを大切にし、地域の賑わい創出及び住民の連携強化に繋がっている。</p> <p>地域内の女性で組織する「大平ゆいっこ味噌グループ（平成30年7月設立、会員7名）」では、「大平集落センター」に併設された味噌加工施設を活用し、集落で生産された大豆を味噌に加工し、提供している。同グループは、地域内の各家庭に伝わる味噌の味を継承し、商品開発に取り組んでいる「おくたま農産味噌加工部」とも、技術の共有を図りながら技術研鑽を進めている。</p> <p><b>(4) 集落の様子を記録として残す取組</b></p> <p>農業生産活動が可能な集落を目指すためには、将来的に、協定農用地にも基盤整備事業の導入が想定されることから、現在の集落の様子を記録として残し、後世に伝えるため、ドローンによる空撮を行った。</p>
---------	-------------	--

集落等の概況等	地域の活性化の取組内容	<p><b>3 今後の課題と将来展望</b></p> <p><b>(1) 少子高齢化による担い手対策</b></p> <p>中山間地域等直接支払交付金の積立金を活用して草刈り機を整備し、農業生産活動の省力化を図るとともに、若い世代の方々に農作業への参画を働きかけながら、世代交代を図っていききたい。また、個人ごとの農地管理には限界が見えてきたことから、将来的には営農組合の立上げを視野に入れながら、農用地の管理や農地集積を行いたい。</p> <p><b>(2) 農産物の高付加価値化及び地域活性化</b></p> <p>米の販売から加工品の商品開発と販売に向けて力を入れて取り組み、収益UPや雇用の場の創出を図りたい。</p> <p>県内外のそば屋の視察研修を通じて得た技術や経営のノウハウを生かし、「小さなそばまつり」を今後も継続しながら、そばの加工販売による農家所得の向上に努める。</p> <p>大平ゆいっこ味噌グループが作る味噌は評判が良いが、集落内の家庭や自治会総会の出席者への提供と、販売にはいたっていない。今後は、大豆の作付面積を拡大するとともに、味噌の販売に向けて現在の加工施設を整備するとともに、引き続き、おくたま農産と連携しながら、新商品の開発を目指したい。</p>
---------	-------------	---

## 千厩町大平集落の活動写真



【そば栽培による景観形成】



【女性達による環境美化活動】



【ため池の危険啓発看板の設置】



【「新そばまつり」での交流の様子】

### 3 白石集落農業生産組合（山田町）

#### （1）活動のポイント

- 集落の高齢化が進み、耕作放棄地の発生が懸念されたため、平成 20 年から、農業委員会の推奨でそばの栽培を開始した。平成 24 年に、集落にあった水車小屋を再建し、それをきっかけに、米やそばの製粉に使用している。
- 地域内外の方々に親しみを込めて覚えてもらうため、平成 28 年に、組合の名称を、水車の音にちなんで「ごっとな会」とした。その後、ロゴマークを作成し、のぼり旗やシールを作成しPRするなど、賑わいの創出を図っている。
- 毎年 11 月に「白石水車まつり」を開催し、訪問者に対し、そば打ち体験の実施や、農産物の販売を行っている。そば打ち体験では、町特産の海藻「アカモク」を使用したそばも味わうことができ、町役場と連携し、チラシやホームページで宣伝している。平成 30 年 11 月に開店予定の農家レストラン「ごっとな茶屋」で提供することを検討しており、知名度UPを狙っている。
- 地元の小学生を稲作体験（田植えから稲刈りまで）やそば打ち体験で受け入れており、児童との交流や、食・農業への関心を高める活動が行われている。

#### （2）現地調査における主な質疑

項目	委員（質問・意見）	集落（回答）
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥獣による被害はあるか。</li> <li>・組合の愛称「ごっとな会」は、覚えやすく、良いと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クマ、シカ、キジによるものが多い。</li> </ul>
中山間地域等直接支払制度の取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組面積は増えてきたのか。</li> <li>・農業生産活動は、協定構成員で行っているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第 2 期対策期から取り組んでいるが、それ以降はずっと 3.1ha の農用地面積で活動している。</li> <li>・構成員はもちろん、構成員でない者と一緒に、力を合わせて活動している。</li> </ul>
そばの加工・販売	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アカモク入りそば」は、他の地域にもあるのか。</li> <li>・アカモク入りそばを、集落だけでなく、山田町全体に食べてもらうべきではないか。教育委員会と組んで給食に出すなど、展開方法は色々ある。</li> <li>・そばの取組は今やどこでも見られるので、販売するならば、ネーミングの工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白石集落のオリジナルと思う。アカモクを乾燥させて粉とし、そば粉とともに練り合わせる。栄養もあり、意外と作りやすい。</li> <li>・今はそば打ち体験を通じて提供しているが、農家レストランが開業したら、そちらでも提供したい。</li> </ul>



### (3) 取組に係る総評（事務局案）

#### ① 評価した点

地域に埋もれていた資源（水車）を復活させることにより、新しい活動（特産品（アカモク入りそば）開発、農家レストランの開業等）を作り出していることを評価。

さらに、これらの資源を活かした民泊構想を実現するための取組が始まるなど、好循環が生まれており、今後の更なるステップアップが期待される。

#### ② いわて中山間賞授与の可否

可

「いわて中山間賞授与要領」第6で定めた以下の3つの「選考の基準」を満たしており、他地域のモデルとなる取組と認められる。

- (1) 集落等の話し合いを通じて、将来の目指す姿が共有されていること。
- (2) 農業生産活動を通じ、耕作放棄の防止等の活動や水路・農道の管理などが行われていること。
- (3) 集落等において、女性や若者の参画等による地域の個性を活かした活性化の取組が行われていること。

【現地調査の写真】



【組合による概要説明】



【委員による質疑】



【アカモク入りそば打ち体験のチラシ】



【協定農用地（田・急傾斜）】



【水車小屋の外装】



【水車小屋の内装】



【「ごっとな会」のぼり旗】



【開業予定の農家レストランの内装】

(別紙様式)

平成 30 年度「いわて中山間賞」候補調書

集落等の名称		ふりがな しろいししゅうらくのうぎょうせいさんくみあい 白石集落農業生産組合				
集落等の状況	市町村	山田町				
	代表者 氏名・住所	氏 名	越田 正一郎		住 所 山田町織笠	
	地域の 農用地面積	計	田	畑	草地	採草放牧地
		3.1ha	3.1ha	ha	ha	ha
	構成員	世帯数	構成人数	うち 農業者	うち 非農業者	うち 女性
16戸		16人 (1組織)	13人 (1組織)	3人	7人	人
農用地の 作付け状況	計	水稻	そば			その他
	3.1ha	1.6ha	1.4ha			0.2ha
集落等の概況	<p>白石集落は、山田町の南部に位置する織笠地区にあり、準用河川である白石川の東西に跨る山間部の集落である。水稻を中心とした農家が多いが、良好な景観形成及び耕作放棄地対策を目的として、平成 20 年からそばの作付けを開始した。</p> <p>中山間地域等直接支払制度に取り組んでおり、農業生産活動を通じたそばの販売額の向上を目標としている。平成 24 年には、集落の共同施設として使用されていた水車小屋を再建し、集落で収穫された米やそばを挽き、米粉・そば粉を団子などに加工し、まつりなどのイベントで販売している。</p> <p>高齢化が進んでいるが、消費者との交流や農産物・加工品の販売などを通じて、集落の農業者がやりがいを感じ、また、女性や高齢者の活躍の場が広がり、組合員の活動意欲が高いものになっている。</p>					
集落等の組織体制図						
将来の 目指す姿	<p>引き続き農業生産活動を継続的に行うことで、耕作放棄の発生防止に努めるとともに、地元の小学生への農業体験学習支援を通じて、活性化を図る。</p> <p>新たに農家レストランの営業や民泊の受入れなどを行うことで、農家所得を向上させ、かつ、地域外の方々との交流を促進し、活気のある集落を作り、訪れた方に対し、癒しの場を提供していきたい。農家レストランでは、山田町特産の海藻「アカモク」を混ぜ込んだそばなど、地域特有のメニューを提供することで、知名度の向上やリピーターの獲得につなげたい。</p>					

集落等の概況等	<p style="text-align: center;">地域の活性化の取組内容</p> <p><b>1 地域の活動のきっかけ</b></p> <p>中山間地域等直接支払制度に取り組み、交付金を活用して環境整備や景観形成に取り組んでいたが、高齢化が進み、耕作放棄地の発生が懸念された。そのため、対策として、平成 20 年に、農業委員会が推進するそばの作付けを開始した。平成 23 年 2 月には、昔から守り続けてきた棚田などの景観の保全や農業所得の向上を図る目的で「白石集落農業生産組合」を設立した。平成 24 年 3 月には、老朽化していた水車小屋を改修し、集落で生産された米やそばの製粉機の動力として活用し、団子や蒸しパン、もちなどの加工に取り組んでいる。</p> <p><b>2 地域の活性化に向けた取組活動の特徴と成果</b></p> <p><b>(1) 加工施設の設置による女性組合員の活躍</b></p> <p>女性組合員から加工施設の導入について強い要望があり、岩手県葛巻町の「森のそば屋」の水車を視察し、その後、平成 24 年に県の「いわて未来農業確立総合支援事業」を活用して設置した。それからは、女性が中心となって農産物加工を行い、「山田町農業まつり」などの場で販売し、来場者から好評を得ている。</p> <p><b>(2) 組合に愛称をつけてブランド化</b></p> <p>地域内の子どもや集落を訪れる方々に親しみを込めて覚えてもらうため、平成 28 年に、組合の愛称を「ごっとん会」（水車の音がモチーフ）と決定した。また、「やまだワンダフル体験ビューロー」（山田町水産商工課）と連携してごっとん会のロゴをデザインし、産直や「白石水車まつり」などのイベントで販売する郷土菓子のパッケージにロゴシールを貼り PR するなど、他製品との差別化を図っている。ロゴは集落ののぼり旗にも使用され、産直やイベントの際に掲示し、賑わいの創出を図っている。</p> <p><b>(3) 農業体験の促進</b></p> <p><b>① 消費者との交流</b></p> <p>毎年 11 月に開催する白石水車まつりでは、地域内外から来客があり、集落で栽培したそばを活用したそば打ち体験や、農産物の販売を行っている。</p> <p>また、平成 28 年には、以前から実施していた「そば打ち体験」を「白石そば &amp; 野菜づくり全部体験」というイベントに発展させ、そばの種まき、花見、刈り取り、そば打ち及び各種野菜の種まきや収穫までの一連の農業体験を実施している。全工程に参加する方もいれば、一部のみ参加する方もおり、そういった方に対しては、写真を見せるなどして様子を知らせている。これまで、延べ 161 人が参加している。そば打ち体験では、山田町特産の海藻「アカモク」を使用したそば打ち体験も可能であり、やまだワンダフル体験ビューローと連携し、チラシやホームページで告知している。</p> <p><b>② 地元小学校における農業体験学習支援による食育活動</b></p> <p>山田町立織笠小学校が実施する稲作体験学習を受け入れ、水田圃場の提供や田植え・稲刈り作業の指導を行うとともに、収穫された米を収穫祭の場で提供している。また、山田町立轟木小学校のそば打ち体験も受け入れており、水車を整備してからは、児童との交流や、食・農業への関心を高める活動が行われている。</p> <p><b>(4) 東日本大震災津波の被災者との交流</b></p> <p>東日本大震災津波の被災者の仮設住宅を訪問し、集落で生産されたきゅうりやインゲンマメなどの野菜を無料で提供していた。現在では、居住者から「買うから売りに来てほしい」と言われており、農産物の販売を通じた交流が続いている。</p>
---------	---

集落等の概況等	地域の活性化の取組内容	<p><b>3 今後の課題と将来展望</b></p> <p><b>(1) 新たな人材確保による集落の維持</b>          組合員の高齢化が進んでおり、世代交代が進んでいないことが課題となっている。集落内に若手の農業者となりうる者がいないことから、定年帰農者の担い手としての育成や、集落外からの新たな人材の確保について、行政と連携を図りながら検討していく必要がある。</p> <p><b>(2) 農家レストランの営業や民泊の受入れによる所得向上・地域活性化</b>          平成30年11月頃に、農家レストラン「ごっとな茶屋」を、週末限定でオープンする予定である。ごっとな会ではアカモクを使用したそば打ち体験を実施しているので、農家レストランでも地域独自のメニューとして提供し、集落の知名度UPを図りつつ、売上げUPにつなげたい。          また、民泊についても興味があり、昨年度に野田村の受入れ農家を視察した。視察後には組合員3軒の家庭で民泊の受入れの練習を実施し、町内有志の方々に実際に宿泊してもらうなど、前向きに検討を進めている。</p>
---------	-------------	---

## 白石集落農業生産組合の活動写真



【地元の小学生による田植え体験】



【水車小屋】



【そば打ち体験】



【「ごっとな会」のロゴマーク】